

# スクランブル

編集・発行：品川区大井第二地区スクランブル編集委員会

大井2-27-20 大井第二地域センター内 TEL(3772)2000 FAX(5709)7627

ホームページ <http://www2.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyo/01/01/d0211.html>

編集委員：青少年対策大井第二地区委員会・山中小学校PTA・大井第一小学校PTA・伊藤学園PTA・伊藤中学校OG

## 立会川探訪

大井地区の皆さんにとって、馴染み深い「立会川」と「立会道路」。立会川は古くから存在した自然河川で、立会道路はその川にフタをしたものです。今回は、そんな立会川にスポットを当ててみました。

立会川の全長は七・四km。目黒区内の二つの池を水源とし、途中で合流して品川区内に入り、勝島運河に注いでいます。田園地帯を流れる小川の立会川が、昭和三十九年の東京オリンピック開催を契機に大きく変わったのでした。品川区下水道河川課、下水道整備担当の西川主査に当時の経緯をお聞きしました。

### オリンピックを境に大変身

「戦後の宅地化、工業化と共に生活排水等が流れ込んで河川の汚濁が進行したため、また、東京オリンピックを前に下水道整備が急ピッチで進められていたこともあり、川にフタをして下水道の幹線として活用することになりました。その上は道路や緑道として整備されたわけですね。ちなみに、河口付近は今でも水面を見ることができませんが、実際はフタをした下水管との境の部分が堰せきで仕切られており、下水管は別の下水幹線に接続して森ヶ崎水再生センターという下水処理場まで送られます。」

何と、立会川と立会道路は堰で区切られた別物だったのです。また、それぞれに固有の課題を抱えているので、その対策も進められているそうです。

### 新バイパス「第二立会川幹線」

「下水幹線としての課題は、大雨の時に幹線の容量を超えた大量の雨水が流れ込んでしまう場合の対応です。これは、アスファルト化が進んだために雨水を浸透させる土の部分の面積が昔と比べて大幅に減少し、殆どの雨水が道路の下下水道に流れ込んでしまいます。このため、東京都下水道局が新しい下水のバイパス幹線、第二立会川幹線の建設工事を進めています。」



↑浄化対策が進められる月見橋付近

### 地下湧水と高濃度酸素

一方、河口付近は運河からの海水が停滞して水質が悪化しているため、浄化対策に取り組んでいます。東京駅周辺で問題になっている地下湧水を立会川まで送水して淡水で薄める対策も講じていますが、

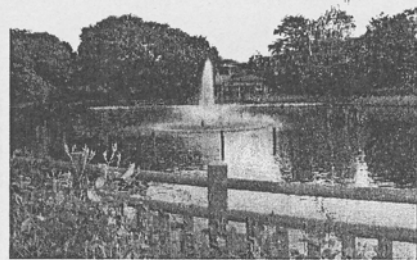
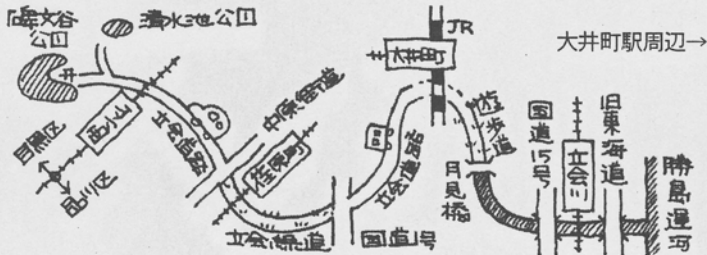
さらに取り組みを強化し、河口部分の水に高濃度の酸素を溶かし込むことで河川全体の酸素不足を解消する浄化装置を建設しています。」と西川主査は区の多様な取り組みを紹介してくれました。姿と役割は変われど、そこは区民にとっては昔から親しんだ川、対策の成果が期待されます。

### 水源は碑文谷公園と清水池



立会川の河口は、旧東海道に架る浜川橋（泪橋）から見渡せる勝島運河との合流地点。そこから川沿いをさかのぼって見ました。浜川橋から立会川駅の商店街を抜け、国道十五号から三百メートル程行った月見橋で水辺は姿を消します。代わって緑映える遊歩道が現れます。立会道路です。左手に東芝病院を見ながらしばらく歩くと大井町駅。JRの踏切を越えて立会道路に戻ると、遊歩道と一般道路が混在し、やがて道路のみとなります。西大井駅を過ぎ、国道一号を渡ると、再び遊歩道となり、中原街道まで続きます。中原街道から再度車道となりますが、その両脇は桜並木。花咲く季節は見事な桜のトンネルとなることでしょう。東急目黒線の西小山駅を過ぎると目黒区に。品川区同様に遊歩道の区間もあり、所々に立会川を紹介する案内板も見られます。「水源」だった二つの池もまだ残っています。目黒通りを挟んで位置する清水池と碑文谷公園の池です。

かつては、これらの池から滔々（とうたう）と清流が流れ、東京湾まで流れ込んでいたのですが、今は想像するしかありません。そんな感慨を抱きつつのわずか七km余りのウォーキングでしたが、街並みも変化に富み、新緑の季節と相まって心地よいひと時を過ごすことができました。【福島・嶋村】



↑水源の碑文谷公園の池

＝ゴドモ達・オトナ達に捧ぐ、身近な癒しスポット、公園の魅力再発見レポート＝

大井町駅から歩き、光学通りのなだらかな坂を上りきったあたりに、開店 20 年になるパン屋さんがあります。お昼近くになると、入れ替わり立ち代りお客が出入りする人気のお店です。

店の中には、黒糖を入れて蒸した黒パン・サンドイッチ・クロワッサン・チョココロネ・マドレーヌ・甘食・アンパンマンの顔のチョコパン・食パン・フランスパン…その他のパンがところ狭しと並んでいます。中でも、黒パン・マドレーヌ・食パンがよく売れるとのこと。火曜日には、天然酵母のパンも多く並びます。



フランスパンは 11:30～12:00、食パンは 11:00 頃に焼きあがります。焼きたてがオススメです!



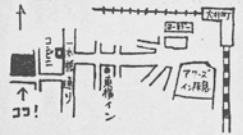
店のご主人は、食の安全と美味しいものを届けたいとの思いから、毎日パン作りに励んでいます。

お勧めは、食パンとのこと。しっとりとした食感に味も格別。トーストもよし、サンドイッチもよし。ダイエット中の方は、食べすぎに御用心!!!

【森】

④森下児童遊園 大井2-1-13

JR大井町駅から徒歩7分。広場と遊具コーナーの間にあるパーゴラが目をつけます。



この公園の特徴は広い広場! 「ポコペン」や「高おに」、地面に『S』の字を書いて「Sケン」などが楽しめるんだ! 大人数で遊ぶのにピッタリだね。はしゃいで転ばないように注意! 【鈴木】

ここのすべり台の特徴は、ノーマルな直線と、カーブの2コースに分かれているところ! カーブの方はトンネルみたいになっているので、頭をぶつけないように気をつけてね★【上田】



公園の中央の段にのぼって上を見上げると、まるで屋根のような藤棚があり、4～5月頃には藤見が楽しめます。住宅地の静かな公園で、憩いのひとときを過ごしてみては? 【五十嵐】

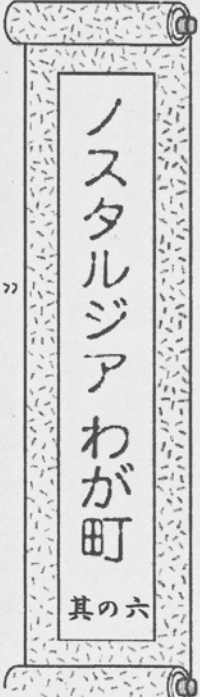


←水神池の社。正面には鯉の彫物。↓「鯉塚」と「水神池」の石碑。

この地には、品川区の史跡に指定されている「大井・原の水神池」があります。昔、原・出石などの農家が、出荷する野菜を洗った「洗い場」があった所で、驚くことに現在も水が湧き続けているそうです。



出石(いずるいし・いずるし)という地名はかなり古い記録にも載っていますが、その由来は詳しくわかっていません。おそらく早くから開拓された地域で、そのときに石などが多く出たので、「出石」という名が通称として用いられていたのではないかとされています。



この地に祀られている水神社は、農耕や日常生活に欠かすことのできない水を確保し続けたいという願いから、地元の人々によって建立されました。また、清く澄んだこの池の水は眼病を治すのに効果があるといわれ、治るとそのお礼に鯉を放ったといえます。「洗い場」は、都市化とともに姿を消してしまいました。この水神池により、農村だった頃の生活や民間信仰の一面を知ることができます。



金子原という地名は、昔、金子左近という長者が住んでいたのが名付けられたといわれていますが、その人がどのような人だったかについてはわかっていません。現在の東芝会館が建つ地に金子氏の屋敷があったそうで、「金子山」と呼ばれる品川区の遺跡に指定されています。かつての姿は、鎌倉・室町・安土桃山時代の台地縁辺(台地のふち)と



現在の東芝会館

歴史上、由緒・伝統のある、親しみ深い旧町名の由来などを含め、「まち」の原風景をシリーズでお届けします。

城館で、環七通りから急な坂を登りつめたところにあることから、当時は見晴らしのよかったことが想像できます。\* \* \* \* \* 六号にわたって連載してきた「ノスタルジアわが町」、いかがでしたでしょうか。その地がもつ自然のたずまい、そこに住む人々の歴史などにもとづいて名付けられた由緒ある地名は、明治期の市町村制の施行、昭和に入つての市郡併合、その後に行われた住居表示制度の実施によって、残念ながら町名としては消えてしまいました。しかし、地域に目を向けてみれば、小学校や保育園、公園や町会の名前に、その歴史は脈々と受け継がれていることがわかります。「ここはどうしてこういう名前なの?」子どもたちから訊かれたとき、話してやれるといいですね。【山本】